

平成29年度

# 自己評価結果

聖マタイ幼稚園

## 保育理念

本園はキリスト教精神にもとづいて、園にかかわるすべての人々が、神の祝福と愛の恵みの中で、幼な子を中心として、神に感謝しつつ保育をする。心身の発達と人格形成の基礎となる最も大切なこの時期に、望ましい環境を整え、家庭支援や地域との関わりを重視しながら、幼な子にとって最善の保育を目指す。

## 保育目的

キリスト教の愛に根ざし、幼児の成長の発達にふさわしい環境を設定し、教師が見守りつつ、いろいろな援助のなかで、幼児の心や身体が健康で、明るく全体に調和のとれた、自発性のある子どもを育てる。

## 保育方法

子どもたちの可能性へのチャレンジとしてモンテッソーリ教育法を取り入れています。クラスは3・4・5才児混合の縦割りです。この教育法を基にモンテッソーリ氏が開発した教具を用いて子どもたちがおしごと（モンテッソーリ活動）に取り組んでいる姿が見られます。整えられた環境の中で子どもたちの自らを成長させようとするエネルギーを支え、「一人のできるように・・・」と自立へ向かう道を援助していきます。

## 評価項目の達成状況

### I 保育の計画性

	評価分類	評価	備考
1	園の教育理念 教育方針の理解	A	
2	幼稚園教育要領の理解	B	
3	教育課程の編成	A	
4	指導計画の作成	A	
5	環境の構成	A	
6	保育と計画の評価・反省	A	

## II 保育の在り方、幼児への対応

	評価分類	評 価	備 考
1	健康と安全への配慮	A	
2	幼児のみとりと理解	A	
3	指導とかかわり共同作業者として	A	
4	あこがれを形成するモデルとして	A	
5	心のよりどころとして	A	
6	遊ぶ援助者として	A	
7	保育者同士の協力・連携	A	

## III 教師としての資質や能力・良識・適性

	評価分類	評 価	備 考
1	専門家としての能力・良識・義務	A	
2	マナー	A	
3	組織の一員としての在り方	A	
4	保育の楽しみ・喜び	A	
5	まわりを感じ取れる感性・アンテナ	A	

## IV 保護者への対応

	評価分類	評 価	備 考
1	情報の発信と受信	B	発信が少し弱かった
2	協力支援	A	
3	守秘義務の遵守	A	
4	対応上のマナー・良識	A	
5	クレームへの対応の仕方	A	

## V 地域の自然や社会とのかかわり

	評価分類	評 価	備 考
1	地域の自然・人々とのかかわり	B	
2	小学校との連携	A	
3	地域への開放と支援	C	

## vi 研修と研究

	評価分類	評 価	備 考
1	研修・研究への意欲・態度	A	
2	教師としての専門性に関する研修・研究	A	
3	遊具・教材に関する研修・研究	A	
4	園内の環境に関する研修・研究	A	
5	今日的課題に関する研修・研究	A	
6	自らを高めるための学習	A	

評価は A (十分達成できている) B (おおむね達成できている) C (達成に努力がひつようである)

## 総合評価

平成29年度は保育に関する大きな学びが3つあった。

- ① 採用二年目の教師二人を当園が取り入れているモンテッソーリ教育教師養成を目的としたコース（広島市在）へ毎月一週間派遣した。意欲的に通い、園内での伝達講習や情報等を提供してくれた。クラス担任の疑問解決や子どもにとっての教材の提供の仕方等保育について話し合う機会も多くなりマンネリ化防止も含め、よりよい保育をめざす目標を確認出来た。二人の教師が不在となる状況があったがベテラン教師が新任教師を支えながら、心を一つにして子ども達を保育する事ができたと思う。
  - ② 特別に支援を必要とする子が増えている昨今、支援を要する子又、その保護者への対応の仕方を学ぶ事が不可欠である。  
九州地区私立幼稚園の研究発表園になっており、前年度よりその課題に取り組み専門の講師による勉強も重ねてきた。その内容については日々の保育の「個々を大切に」関わっていく上で大いに役立っているので継続して学んでいきたい。
  - ③ 保幼小連携の大切さを形に表す為に、県や豊見城市が開催する会議に積極的に参加している。5市町村広域の子どもが在園する当園に於いては、年長児の就学先の情報を得ることに努めている。会議に参加する事により入学前の不安やその後の様子を知る為の情報交換の場にもなっているので、大いに活用している。
- ※ 教育要領が改定され新しく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が掲げられている。教育要領を踏まえ、これまでの保育を振り返りながら、ひとりひとりの育ちが確立できるよう援助していきたい。